

仙台市文化財調査報告書第180集

仙台市宮城地区大倉
遺跡範囲確認調査報告書

——大原・下倉地区土地改良総合整備事業関連遺跡調査——

1994年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第180集

仙台市宮城地区大倉
遺跡範囲確認調査報告書

——大原・下倉地区土地改良総合整備事業関連遺跡調査——

1994年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市内には、現在700ヵ所余りの遺跡が登録されていますが、そのうち宮城地域内には約150ヵ所の遺跡が所在しております。しかし、今回調査を行ないました大倉地区を含む西部地区ではこれまで発掘調査例がなく、地区内の原始・古代の様子はあまり知られていませんでした。

しかし、近年、市道拡幅工事や今回の土地改良事業の実施等に伴う調査が実施され、少しづつではありますが地区の歴史が説き明かされてきております。

とくに、1991年に行なわれた熊ヶ根地区の野川遺跡の調査では、約1万年前の縄文人が遺した石器の貯蔵跡が、県内で初めて発見されるという大きな成果がありました。今回の調査におきましても、遺跡範囲確認調査ということではありますが、中世の館跡や縄文時代の遺跡の性格が明らかになりました。

先人たちの遺した貴重な文化遺産をつぎの世代に継承していくことは、現代を生きる私たちの大きな責務であると考えます。文化財保護につきましては、地域の皆様の深いご理解とご協力が必要であり、これからの街づくりのなかでどのように開発との調和を図っていくべきか、皆さんとともに考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の調査で多くのご協力をいただきました地元の皆様に、心より御礼申し上げる次第であります。

1994年3月

仙台市教育委員会
教育長 東海林 恒 英

例 言

1. 本書は、仙台市青葉区大倉地区での土地改良総合整備事業の実施に伴う、遺跡範囲確認調査の報告書である。
2. 報告書作製にあたっての遺物整理・編集・執筆は工藤信一郎が担当したが、陶・磁器の産地同定・年代観については文化財課佐藤洋による。
3. 本書中で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:25,000「仙台市西北部」の一部を使用している。
4. 本書中で使用した航空写真は、建設省国土地理院（1956年米軍撮影）のものを使用している。
5. 本書中の土色については「新版標準土色帳」（小山・竹原：1973）を使用した。
6. 実測図中の水糸高は標高で統一してある。
7. 実測図中の方位は磁北で統一してある。仙台市において磁北は真北に対して西偏約7'20"である。
8. 本書中で使用した遺構略号は次の通りである。
SK：土坑 SD：堀・溝・溝状遺構 P：ピット SL：土塁
SX：その他の遺構
9. 本調査における出土遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会文化財課で保管しているので活用されたい。
10. 調査にあたって、下記の機関・方々よりご協力いただいた。（敬称略、順不同）
下倉土地改良事業共同施工委員会・宮城県土地改良事業団体連合会・社団法人宮城県農業公社
萱場 久・関 昭・平 常雄

調査要項

[一次調査]

1. 対象遺跡 大原館跡・下大倉館跡・萱場遺跡
2. 遺跡の所在地 仙台市青葉区大倉字下倉・大原地内
3. 調査主体 仙台市教育委員会
4. 調査担当 仙台市教育局社会教育部文化財課調査係
5. 担当職員 主事 齋野 裕彦 教諭 高倉 祐一
6. 調査期間 1989年5月8日～6月28日 (実働33日)
7. 調査面積 調査対象面積 250,000㎡
発掘調査面積 約1,000㎡
8. 調査参加者 早坂 正 結城 順子 高橋美津子 結城ひろみ
結城みのる 小松けさい 結城むら子 結城 泰子
早坂かつ子 大貫 裕子 平 たみよ 結城 きよ
片桐さとの 結城さい子 片桐 しめ 結城つよせ
安達 すげ 大宮みつえ 大山のり子 米倉 節子
菅井 民子

[二次調査]

1. 対象遺跡 大原新田遺跡・大貫遺跡・東沢目遺跡
2. 遺跡の所在地 仙台市青葉区大倉字大原地内
3. 調査主体 仙台市教育委員会
4. 調査担当 仙台市教育局社会教育部文化財課調査係
5. 担当職員 主事 工藤信一郎 教諭 稲葉 俊一
6. 調査期間 1991年4月17日～5月22日 (実働21日)
7. 調査面積 調査対象面積 100,000㎡
発掘調査面積 約800㎡
8. 調査参加者 小松けさい 高橋美津子 平 たみよ 片桐さとの
石垣けさえ 早坂かつ子 永島みよこ 大滝 昇
若生 洋子 高橋 弘子 村本 茂子 佐藤 悦子

[整理作業参加者]

浅若 広子 岩城いく子 菊地よしえ 関谷 礼子
森谷 愛子 島本 香織

本文目次

I. 調査に至る経過	1
II. 関係遺跡の位置と環境	1
1. 関係遺跡の位置	1
2. 周辺の歴史的環境	2
III. 調査の経過と方法	7
IV. 第一次調査(平成元年度-大原・下倉地区)	7
1. 調査の方法と経過	7
2. 大原地区の調査(Na1~Na9トレンチ・大原館跡)	7
(1) 調査区基本層序	10
(2) 発見された遺構	10
① 溝状遺構(Na1トレンチ)	10
(3) 大原館跡の調査(Na4トレンチ)	11
[館跡の形態]	11
[土 壘]	11
[堀 跡]	12
[平 場]	12
[大原館跡に関する文献資料]	12
(4) 発見された遺物	17
① 土 器	17
② 石 器	20
3. 下倉地区の調査(Na10~Na15トレンチ・下大倉館跡)	24
(1) 調査区基本層序	24
(2) 発見された遺構	26
① 水田跡(Na13トレンチ)	26
② 溝状遺構(Na11トレンチ)	26
(3) 下大倉館跡の調査(Na10, Na11, Na15トレンチ)	27
[館跡の形態]	27
[土 壘]	28
[堀 跡]	28
[下大倉館跡に関する文献資料]	31

(4) 発見された遺物	36
① 土 器	36
② 石 器	37
V. 第 二 次 調 査 (平成三年度—大原地区)	38
1. 調査の方法と経過	38
2. 調査区基本層序	38
3. 発見された遺構と遺物	41
(1) 発見された遺構	42
① 遺物包含層 (No16トレンチ)	42
② 土 坑 (No24トレンチ)	42
(2) 発見された遺物	42
① 土 器	42
② 石 器	50
VI. ま と め	51

挿図・表 目 次

第1図 関係遺跡と周辺の遺跡	3	第15図 下倉地区遺跡範囲確認調査 トレンチ配置図	25
第2図 大倉地区土地改良総合整備事業 年次施工計画図	5・6	第16図 No13トレンチ平面図及び 南壁セクション図	26
第3図 大原地区遺跡範囲確認調査 トレンチ配置図	8	第17図 No11トレンチ平面図及び 溝状遺構セクション図	27
第4図 基本層序・各調査トレンチ 土層柱状模式図	9	第18図 下大倉館跡廻跡(S D01)・ 溝跡(S D02)平面図及び セクション図(No10トレンチ)	28
第5図 S D01平面図・断面図(No1トレンチ)	10	第19図 下大倉館跡現況平面図・ 調査トレンチ位置図	29
第6図 大原館跡現況平面図・ 試掘トレンチ位置図	13	第20図 下大倉館跡土層・堀跡平面図	30
第7図 大原館跡土層・堀跡平面図	14	第21図 下大倉館跡周辺現況平面図	32
第8図 大原館跡土層・堀跡 (No4トレンチ)	15・16	第22図 下大倉館跡関係地籍図 (明治19年-1886-頃作成)	33
第9図 大原館跡周辺現況平面図	18	第23図 出土遺物 土師質土器・陶磁器	36
第10図 大原館跡関係地籍図 (明治19年-1886-頃作成)	19	第24図 出土遺物 石器	37
第11図 出土遺物・土器(1)	21	第25図 大原地区遺跡範囲確認調査 トレンチ配置図	39
第12図 出土遺物・土器(2)	22	第26図 各調査トレンチ土層柱状模式図	40
第13図 出土遺物・石器	23		
第14図 調査トレンチ土層柱状模式図	24		

第27図	No.24トレンチ平面図及び 北壁セクション図	42
第28図	出土遺物・土器(1)	43
第29図	出土遺物・土器(2)	44
第30図	出土遺物・土器(3)	45
第31図	出土遺物・土器(4)	46
第32図	出土遺物・土器(5)	47
第33図	出土遺物・土器(6)	48

第34図	出土遺物・土器(1)	49
第35図	出土遺物・土器(2)	50
表1	遺跡範囲確認調査成果一覧(大原地区)	7
表2	出土石器観察表(第13図)	20
表3	遺跡範囲確認調査成果一覧(下倉地区)	24
表4	遺跡範囲確認調査成果一覧 (大原地区・2次調査)	38
表5	各調査トレンチ土層注記表(第26図)	41

写真図版 目次

写真1	大原地区航空写真(1956年撮影)	54
写真2	下倉地区航空写真(1956年撮影)	55
写真3	No.1トレンチS D01完掘状況	
写真4	No.1トレンチS D01セクション	
写真5	大原館跡遠景(南西側熊ヶ根から)	56
写真6	大原館跡 No.4トレンチ(北側から)	
写真7	大原館跡 土器S L01・細S D01	
写真8	大原館跡 堀S D01セクション	57
写真9	下倉地区(1次調査)No.10トレンチ・溝跡	
写真10	下倉地区(1次調査)No.11トレンチ・溝跡	
写真11	下大倉館跡 遠景(北側から)	58
写真12	下大倉館跡(No.15トレンチ)堀跡検出状況	
写真13	下大倉館跡(No.10トレンチ)堀跡	
写真14	下大倉館跡現地説明会	59
写真15	大原地区(2次調査)No.5トレンチ	
写真16	大原地区(2次調査)No.9トレンチ	
写真17	大原地区(2次調査)No.22トレンチ 溝状遺構検出状況	60
写真18	大原地区(2次調査)No.22トレンチ 溝状遺構半切状況	
写真19	大原地区(2次調査)No.16トレンチ 遺物包含層完掘後	
写真20	大原地区(2次調査)No.16トレンチ 西壁セクション	61
写真21	大原地区(2次調査)No.15トレンチ (東側から)	
写真22	大原地区(2次調査)No.24トレンチ (西側から)	
写真23	大原地区(2次調査)No.24トレンチ・	

	土坑	62
写真24	大原地区(1次調査)出土土器(第11図)	
写真25	大原地区(1次調査) 出土土器(第12図1~9)	63
写真26	大原地区(1次調査) 出土土器(第12図10~20)	
写真27	下倉地区(1次調査) 出土遺物(第23図1~8)	64
写真28	大原地区(2次調査)出土土器(第28図)	
写真29	大原地区(2次調査) 出土土器(第29図1~6)	65
写真30	大原地区(2次調査) 出土土器(第29図7~14)	
写真31	大原地区(2次調査) 出土土器(第30図1~16)	66
写真32	大原地区(2次調査) 出土土器(第30図17~20)	
写真33	大原地区(2次調査) 出土土器(第31図)	67
写真34	大原地区(2次調査)出土土器(第32図)	
写真35	大原地区(2次調査)出土土器(第33図)	68
写真36	1次調査出土石器(第13図・第24図1)	69
写真37	1次調査出土石器(第24図2~4) 2次調査出土石器(第34図・第35図)	70

I. 調査に至る経過

青葉区大倉地区は仙台市西北部に位置し、市内を東流する広瀬川の支流大倉川につくられた大倉ダムの下流域に位置する。標高は約180m～230m程となっている。

地区内の耕地は未整備のため機械の効率が悪く、農業の多様化、高度化に対応できない状況であった。そこで、土地利用効率を高め、都市近郊農業確立のため、仙台市青葉区宮城総合支所経済課により土地改良総合整備事業が計画され、下倉土地改良事業共同施工委員会の設立準備が進められていた。整備事業計画は平成元年度からの5年計画で、約60%を対象とするものであった。そこで、仙台市教育委員会では関係機関との協議を行ない、大倉地区土地改良総合整備事業に係る6遺跡について、遺跡詳細分布調査を仙台市の自主事業として実施することとした。

当該地域ではこれまで発掘調査例が無く、これまでの表面採集調査だけでは遺跡の性格および範囲は必ずしも明確ではなかった。そこで事業を実施するにあたって、遺跡保存のための協議資料を得ることを目的に、遺跡の範囲、遺構の分布、遺跡の性格等を調査した。

調査は、用排水路及び工法上切り土工となる部分を中心として行ない、遺構の確認された地点については協議のうえ、整備事業の実施に際して地下遺構を傷つけることのないよう工法の変更及び設計の変更を行なっている。

調査は、整備事業の施工年次計画にあわせて、下倉地区と大原地区の2地区について、第一次調査を平成元年度、第二次調査を平成三年度と二か年にわたって実施することとした（第2図）。

II. 関係遺跡の位置と環境

1. 関係遺跡の位置

遺跡の所在する下倉・大原地区は、仙台市の西北部の南奥羽山系の中に位置している。市内中心部からは国道48号線を山形方向に約18km、国道から分岐する市道熊ヶ根定義線の東側沿線に位置している。JR仙山線熊ヶ根駅からはおよそ北東約4kmの地点である。

事業計画地域内には、周知の遺跡として7遺跡が登録されていた。大倉川西岸の河岸段丘上にある下倉地区には、下大倉館跡が所在し、大倉川と青下川に挟まれた河岸段丘上にある大原地区には、東沢目遺跡・大貫遺跡・大原遺跡・大原新田遺跡・萱場遺跡・大原館跡が所在している。

宮城地域の地形を概観すると、西側には南奥羽山系の山並みが連なり、ここから派生する国見・七北田丘陵と蕃山・青葉山丘陵によって北と南を挟まれ、この間を開折して広瀬川が東流

している。広瀬川は、作並付近で新川川と合流し、青下川と大倉川が合流する熊ヶ根付近では比高差50mにおよぶ深い峡谷を形成しながら蛇行している。愛子地区に入ると数段の河岸段丘を形成し、所謂愛子盆地を形成している。

遺跡は広瀬川の支流である大倉川につくられた大倉ダムの下流域の河岸段丘上に位置している。標高は、下倉地区では約222m～233m、大原地区では約175m～213mとなっている。

2. 周辺の歴史的環境

大倉地区を含む広瀬川上流の河岸段丘上や丘陵上には、縄文時代を中心として多くの遺跡が分布している(第1図)。しかしこれまで発掘調査例が無く、出土遺物はいずれも表面採集によるもので、詳しい内容は不明である。

縄文時代の遺跡としては、大原地区西側を流れる青下川の対岸に野川遺跡がある。1991年に市道拡幅工事に伴う緊急調査が実施され、後期前半の遺物包含層の下層から、草創期のいわゆる「キャッシュ(埋蔵物)」あるいは「デポ(一括埋納)」と呼ばれる、石器の一括貯蔵の痕跡を示す土坑2基が宮城県内で初めて検出されている^(註1)。

弥生時代の遺跡は今のところ確認されていないが、古代の遺跡としては、檀ノ原B遺跡・町A遺跡などがある。

中世の遺跡としては、大原館跡の西側広瀬川対岸に熊ヶ根城跡があり、土塁や平場、堀跡などが遺っている。熊ヶ根城跡は「仙台領古城書上」や「安永風土記」に、城跡の規模と共に国分氏家臣六丁目氏の居館であったことなどが記載されている^(註2)。

城跡西側に隣接する興禅寺は、「安永風土記」に六丁目氏によって開基されたとあり、その基所である五輪塔があると記されている^(註3)。現在興禅寺にはこの五輪塔はみられないが、国分盛重とその次男の名の刻まれた墓石が開山碑とともに覆堂のなかにある。

藩政時代のいわゆる国分荘32ヶ村のうち、宮城地域には作並村・熊ヶ根村・大倉村・芋沢村・上愛子村・下愛子村・郷六村の7ヶ村が含まれている。地域内の館跡の分布についてみると、各村ごとの街道沿いに位置しているものが多く、その多くは段丘上の平地に在りながら段丘崖を巧みに防御施設に利用し、平地側に土塁と堀を巡らせる構成となっている。伊達政宗による仙台開府以前の宮城地域は、国分氏の支配下にあったと考えられており、地域内に残る館跡についてもそのほとんどは国分氏に関係するものと考えられる。国分氏配下の家臣として国分氏系図に名のあるもののうち当地域に関係すると思われるのは、郷六氏(郷六村)・萱場氏(下愛子村)・小林氏(芋沢村)がある。また、「仙台領古城書上」や「安永風土記書出」の記述から、当地域に関係する国分氏の家臣としては、前者の他に大原館跡の館主とされる作並氏・下大倉館跡の館主とされる大倉氏のほか馬場氏・六丁目氏があり、館跡として古城書上では、郷六城・葛岡城・熊ヶ根城など8カ城、風土記書出では若干の入れ替えなどがあって11カ城が記載され



施設名	立地	種類	時代	備考	施設名	立地	種類	時代	備考
1 下大倉遺跡	陸庄	縄文	中世、近世		13 町C遺跡	陸庄	古墳地	縄文	
2 東沢川遺跡	陸庄	古墳地	縄文		14 野川C遺跡	陸庄	古墳地	縄文、古代	
3 大宮遺跡	陸庄	古墳地	縄文		15 町A遺跡	陸庄	古墳地	古代	
4 大原遺跡	陸庄	古墳地	縄文		16 町B遺跡	陸庄	古墳地	縄文、古代	
5 大原新田遺跡	陸庄	古墳地	縄文		17 野川遺跡	陸庄	古墳地	縄文(環・石→後)	早稲田の石壁一括発掘跡2基
6 野川遺跡	陸庄	古墳地	縄文		18 麻ヶ根遺跡	陸庄	古墳地	中世	
7 大原遺跡	陸庄	古墳地	中世、近世		19 阿部寺石動石	陸庄	古墳地	中世	
8 大平山遺跡	陸庄	古墳地	縄文(古)		20 野原遺跡	陸庄	古墳地	縄文	
9 大平山遺跡	陸庄	古墳地	縄文(中)		21 道平遺跡	陸庄	古墳地	縄文、古代	
10 大平山遺跡	陸庄	古墳地	縄文		22 白沢遺跡	陸庄	古墳地	古代	
11 野川遺跡	陸庄	古墳地	縄文、古代		23 上原小遺跡	陸庄	古墳地	縄文(古)	
12 野川遺跡	陸庄	古墳地	古代		24 町B遺跡	陸庄	古墳地	縄文(中→後)	

第1図 関係遺跡と周辺の遺跡

(註4)
ている。

近世にはいと先の国分氏配下の諸氏のうち、大倉・萱場・郷六（のちの森田氏）の各氏は新たに伊達家に仕えて知行を与えられている。^(註5)

仙台開府当初、仙台から最上領内に通じる道は「西道」とよばれ、関山越・二口越・笹谷越の三本の街道があった。関山越の街道についての初見は、正保二・三年（1644・45）作製の「奥州仙台北城下絵図」において「愛子道最上街道」としてである。仙台藩では関山に坂下境目御番所、そして最初の宿場となる作並に作並宿御番所において物資の移出入を取り締まっている。熊ヶ根もまた街道沿いの宿のひとつであり、熊ヶ根の字名のひとつとなっている「関」の由来について安永風土記-熊ヶ根村書上「和光院寺跡」のなかで「往古ここに関所があり、その関所が廃止されたのちに和光院が開山され、関の地名もこれによる。」とある。

下大倉館の館主である大倉氏の一族が熊ヶ根村に移り、関氏と称するようになるのは、この地名によるものである。

また、民俗芸能として下倉地区に「下倉の田植踊り」（昭和46年宮城県無形文化財指定）が伝えられている。その踊りの由来について、「安永年間に大倉長部という武将が大倉字宮前にある下倉神社を再建したさいに、武運と天下泰平並びにこの地の五穀豊穡を祈念するものとしてはじめられたもの」と伝えられている。先の大倉氏との関係は定かではないが、一族のものとして考えれば当地における大倉氏との関係を示すものといえる。

注1) 約1万年前よりも古いとする年代観での草創期である。

注2) 延宝年間（1673～1681）にだされた「仙台領古城書上」には、「平山 熊ヶ根城 東西 三十間 南北五十間 城主 六丁目某」とある。また、安永三年（1774）にだされた「安永風土記-熊ヶ根村書上」には、「たではら 古館 堅石」横四十間 右ハ往古国分様家臣六丁目氏の御方御居館之由申伝候 右午 相知不申候当時御百姓地ニ 成居申候事」とある。

注3) 「一 開山之事 当寺ハ国分家盛重御家臣拾式騎之内六丁目氏開基之由ニ御申候 右午号相知不申候 ……」 「一 古基所之事 一 五輪塔 式ツ 国分家御家臣六丁目氏之墓所ニ御座候事」とある。

注4) 「仙台領古城書上」のうち宮城地域分としては、郷六城（郷六村）・葛岡城（郷六村）・馬場城（字沢村）・江六城（字沢村）・こじん城（上愛子村）・おかな館城（大倉村）・三方川古城（大倉村）・熊ヶ根城（熊ヶ根村）の8カ城がある。

「安永風土記書出」のうち宮城地域分としては、古館（熊ヶ根村）・御殿館（上愛子村）・御西館（下愛子村）・南館（下愛子村）・郷六館（字沢村）・馬場館（字沢村）・本郷館（字沢村）・下大倉館（大倉村）・大原館（大倉村）・郷六館（郷六村）・葛岡城（郷六村）の11カ城がある。この他にこれらの文献に記載はないものの、作並村の平賀館・「字沢七館」とよばれる字沢村の原館や箕神館などを加えれば18カ城となり、まさに一村一城といえる多きである。

注5) 伊達家世臣家譜巻十一森田、巻十二萱場、巻十五関による。

